

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究における各自の研究活動」

～中間発表会に向けたルーブリック評価の理解と発表スライドの作成準備～

2. 本時の主題の概要および設定理由

生徒はこれまで専門的課題研究として、各自の興味・関心に基づいたテーマ設定、先行研究の調査、リサーチクエスションの設定、仮説立案、および研究計画の整理を行い、前回の授業で発表スライドの作成に着手した。

本時では、2月後半に控える「専門的課題研究中間発表会」に向け、作成中のスライドのクオリティを向上させる推敲のプロセスに入る。中間発表会は「研究の途中経過の自己点検」と「発表スキルの向上」を重点目標としており、自らの論理構成を客観的に評価することが求められる。

そこで本時では、『スライドチェックリスト』の活用に加え、生成AI(Gemini)を特定のタスクに特化させたカスタマイズ機能である『発表スライド作成支援Gem』を思考のパートナーとして導入する。チェックリストに基づいてスライドの過不足を自己検証するとともに、支援Gemからの自動判定やフィードバックを主体的に問い直す。AIの指摘を鵜呑みにせず、なぜその指摘がなされたのかをチーム内で議論し、指導教員との対話を重ねることで、自分たちの「研究への意思」を明確にしたスライドへとブラッシュアップする。この協働的な推敲プロセスを通じて、論理的思考力と表現力を養うとともに、AI技術を主体的に活用する態度を育成することを目指して本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **中間発表の目標と評価基準の理解:** 中間発表会の重点目標(自己点検・発表スキル向上)および『課題研究発表ルーブリック』の評価観点を理解し、最高評価(レベル4)を目指して自らのスライドの課題を意識できる。
- 2) **客観的自己評価とAIの主体的活用:** 『スライドチェックリスト』および『発表スライド作成支援Gem』を用いて自らのスライドを評価し、論理構成、体裁、図表等の課題や不備を客観的に抽出できる。
- 3) **協働的な推敲と主体的な意思決定:** 支援Gemが提示する指摘や助言を「思考のパートナー」として批判的に捉え直し、チーム内での協働的な対話や指導教員の助言を通じて、自分たちの意思で納得のいくスライドにブラッシュアップできる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第24回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也／新興出版社啓林館／2021)
- 生徒用ワークシート: 『探究ノート』
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』

『専門的課題研究中間発表スライド』(共有ドライブ内のGoogleスライド原本)

- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究チーム編成表』(各教室用シート)

『SS I 分野&担当教員一覧』

- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』、『スライドチェックリスト』
- 学習支援AI: 『発表スライド作成支援Gem』(Gemini上で動作するスライド評価用カスタムAI)

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認 ● 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 ● 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第24回授業スライド(PDF版)』を表示する。	● ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 ● 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
3分	(2) 中間発表会の概要説明(復習) ● 今年度末のゴールである「専門的課題研究中間発表会」(発表5分、質疑なし)に向け、本日を含めて残りの授業回数が4回であるという見通しを確認する。 ● 中間発表会の重点目標(途中経過の自己点検、発表スキル向上)を理解する。 ● 事前に配信された『課題研究発表ルーブリック』を意識し、今回の評価観点(2, 3, 6, 7)を確認する。 ● 前回の授業で作成した『専門的課題研究中間発表スライド』の基本構成(テーマ、背景、リサーチエスチョン、仮説等)を振り返る。	● スライドp.2～7を提示しながら説明する。 ● 中間発表会に向けた時間的見通しを明確にし、本時の作業の重要性を認識させる。 ● ルーブリックに基づき、最高評価「レベル4」の基準を意識してスライドを作成するよう促す。 ● まだスライドファイルのコピーや名称変更(チーム番号+研究発表)が完了していないチームに対し、速やかに完了させるよう促す。
5分	(3) スライドチェックリストおよび支援Gemの活用方法の理解 ● Classroomに配信された『スライドチェックリスト』の各チェックポイント(本文、体裁、図や表など)を確認する。 ● チェックリストに適合しているかを自動判定する『発表スライド作成支援Gem』の特徴や起動方法を理解する。 ● 生成AIを活用する上での心構え(AIは「正解」を提示するものではなく「思考のパートナー」であること、最も背景やプロセスを理解しているのは自分たちと指導教員であること、主体的な意思決定が不可欠であることを)理解する。	● スライドp.8～10を提示しながら説明する。 ● 支援Gemにスライドファイルを添付し、「評価してください」などの適切なプロンプトを入力して評価を受ける手順を解説する。 ● AIへの過度な依存を戒め、AIの指摘を鵜呑みにせず「なぜそう言われたのか」を自問自答し、納得のいく答えを創り出すのは自分たち自身であることを強く指導する。 ● チェックリストは最低限満たすべき条件であり、研究者としての「伝えたい意思」をスライドに込めるために教員との対話を大切にするよう促す。
39分	(4) チーム(個別)課題探究ワークの実践 ● 『探究ノート』を開き、「①本日の予定・目標」を記述する。 ● 各チームの進捗に応じて、発表用スライド(Googleスライド)の作成および内容の推敲を進める。 ● 『スライドチェックリスト』や『発表スライド作成支援Gem』を能動的に活用し、スライドの論理構成や体裁を客観的に自己判定・修正する。	● 担当教員は各チームを巡視し、進捗状況をリアルタイムで把握・支援する。 ● チームごとに個別面談等を行い、研究計画の概要を聞きながら、専門的・論理的な視点から個別に具体的な指導を行う。 ● スライド作成が本格化しているチームには、『スライドチェックリスト』の項目を丁寧に満たしているかを点検するよう促す。 ● AI(支援Gem)の指摘事項に対して判断に迷っている生徒に対し、「AIがこのような指摘をした意図は何か」

	● 支援Gemの指摘(問いの発展方法、言葉の定義、検証方法の適切性など)についてチーム内で議論し、必要に応じてスライド11～25に示された各ステップ(テーマ設定、リサーチクエスションの導出、仮説立案等)を参照しながら再考する。 ● 巡視する指導教員に対し、自分たちの研究計画やスライド作成の進捗を説明し、専門的な個別指導やアドバイスを求める。	「自分たちの本来のこだわりや伝えたいことは何か」といった問いかけを行い、主体的な意思決定を促す。 ● 作業が難航している、またはテーマの修正が必要な生徒に対しては、スライド11～25の解説スライドを適宜活用して個別に補足・支援を行う。 【形成的評価の観点】 ● 『スライドチェックリスト』や『支援Gem』の指摘を批判的に問い直し、自らの研究の論理構成や表現を主体的に改善しているか。(思考・判断・表現) ● チーム内で適切に協働し、時間を見通して意欲的にスライド作成に取り組んでいるか。(主体的に学習に取り組む態度 / 協働性)
1分	(5) 本時の振り返りと今後の見通し ● 本時の活動内容を振り返り、個人端末から『探究ノート』の活動記録欄に記入する。 ● 発表会までにスライドを完成させるために、次回以降の作業見通し(あと2回でスライド完成、その後発表練習)やチーム内の時間外での役割分担を確認する。	● 『探究ノート』の記入が全員完了しているか確認する。 ● 次回の授業でも引き続きスライド作成およびブラッシュアップを行うことを予告し、授業時間外で分担して作業を進めておくことの重要性を指導する。